

SSKP

2020年5月 増頁特集号

はれのちくもり

第126号

別冊ピアス通信 第46号

この通信では、ピアス（就労移行支援事業・自立訓練（生活訓練）事業・就労定着支援事業）のトレーニングやイベントを中心に、「働く」ことに関する情報を発信していきます。

巻頭言

森を抜けて

ピアス 施設長 伊藤 祐子

テレビやネット、ラジオや新聞、どこもかしこも「コロナ」だらけで、心のどこかに常におもりのようなものがあるのを感じます。みなさんのおもりがどんなに重いかを直接会って話して確かめることも今は難しく、もどかしいです。

ピアスは、国の緊急事態宣言を受けて、悩みぬいた末に、安全を第一にと決断し、通所支援と対面での支援・プログラムを一時休止しています。やむを得ないこととはいえ、利用して下さっているメンバーの方々、関係者のみなさまに、ご迷惑とご不便をおかけして申し訳なく思っています。通所休止中もできる限りの支援を継続したいと考え、電話やメール等のやりとりで健康面の確認をしながら、仕事の相談や生活の相談にのらせてもらっています。たくさんのご理解とご協力を本当にありがとうございます。

この期間中、感じていることがあります。離れていてもできるツールとして、メール、ビデオ通話といったオンラインでの相談方法を取り入れました（今回の紙面では、そんなメールのやりとりでみなさんに寄せてもらった文章を紹介しています）。これまで、「密」を支援の基本とし、重要視してきたわたしたちにとって、このようなツールは、正直に言うと今までちょっと疑問に思っていました。ですが、やってみて思ったのは「これも悪くない!」。顔を合わせてグループで相互作用していくというやり方はもちろんこれからも大切にしていますが、離れていてもできることがある、繋がりを感じあうこともできる、ということに気づけたのは収穫でした。このことで、みなさんとの就労支援の日々が、また少し進化したものになる気がしています。

もうひとつは、みなさんの力を改めて感じたという点です。先の見えなさに不安になったり、リズムが不安定になったり、モチベーションの維持が難しかったりと、苦しい胸の内を聴かせてもらっています。働いている方々からは、仕事内容や職場環境が急激に変化したり、逆に忙しく通勤が続いていたり、OB会もお休みなため孤独や不安を感じるという声もあります。ですがそれと同時に、多くのみなさんが、工夫と努力で心身と生活を安定させ、この変化に対応してなんとか過ごすことができている。同じように不安を抱えたわたしたち職員も、みなさんの健やかさに希望をもらいながら、日ごろの支援について改めて考える機会にもなっています。



今ピアスでは、宣言の解除を想定し、通所再開に向けての具体的な準備を始めています。紫陽花が咲くころには、今は静かで人気がないこの建物に、少しずつ風が通り、音が戻ってくることと思います。当分、衛生面に意識する生活は続くので、以前とは違ったやり方での再スタートにはなりますが、会えることを喜びながら、お互いが安全と感じる場所を一緒に作っていきたいです。

これから進む道も、今までに通ったことのない道のようなです。暗い森をくぐり抜けてちょっと進化したみなさんと、一緒に歩いていけることをうれしく思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

特集《ピアスだより》ダイジェスト版



この在宅支援期間中、ピアスでは電話でのやりとりの他に、ピアス通信デイリー版として《ピアスだより》をメールでメンバー&スタッフに配信しています。毎回違うお題に対して、300字程の文章や一言添えた写真などを寄せてもらい、次のお便りで紹介。読んでいるとその人らしさが滲み出ていて懐かしさとともにクスっとしたり、意外な一面が知れたり、どこか就労プロのアイスブレイクのよう。画面越しにいつものピアスの息吹を感じ、ホッとした方も多いのではないのでしょうか。

そんなみなさんからのお便り、満遍なくご紹介したいところですが泣く泣く厳選し、6ページの大特集でお送りします。コーヒー片手に、名文の数々をご堪能ください。お家時間のお供に是非！

おすすめの

本・漫画



『ノルウェイの森』 村上春樹さんの代表作です。

純愛の中の心の揺らぎを描いた作品です。自殺した無二の友人の恋人を支える形で恋した主人公。彼女を支える使命感という形の愛の中で、他に好きな女性ができいく小説です。ギリシャ悲劇の現代版。デウスエクスマキナ。簡単に言うと、行き詰まり、を描いたともわれます。楽しい小説というわけでもなく賢くなれる小説でもなく、しかし人間がわかる小説だと思います。理性と感情、両方描かれているので、私、バランス悪いと思う方は是非。（岡本さんより）

おすすめの本は北村薫さんの『スキップ』です。

17歳から25年という歳月をスキップして42歳の自分の中で目覚めた「わたし」。25年の間に得た家族と、そして高校の先生として生徒と向き合います。「17歳」の主人公の真っ直ぐな性格と生き方が印象に残る小説です。最初に読んだときは主人公の戻れない25年が、あまりに理不尽に思えました。たぶんその頃は「17歳」の方が近かったから。自分には耐えられないと思ったのです。今読んでみて。私も病気になるって、スキップしてしまったこともあります。主人公が失ったものへの哀しみはどうしようもなく持ちながら、生きていく姿に、私も今を生きていきたいと思いました。

『スキップ』は《早送り》であるとともに、主人公の、(中略)、失われることのない軽やかな足取りに外ならないよかったです、その足取りをたどってみてください。（C.N.さんより）

私のお勧めの小説は田辺井蛙著の『生き屏風』です。

角川ホラー文庫から発行されているので怖い小説だと思われそうですが、この小説は主人公の皐月という少女の鬼の視点から四季の美しさや儚さをさらりと描いており、読後感もさわやかです。設定が少し不思議なものが多く、皐月が眠るときは連れている馬（そのものずばり布団という名前を付けて皐月はかわいがっている）の首の肉に潜り込むとか、県境の先からは出られず師匠の猫が見回りに出ているだとか、そういった細かなディテールが日常と違う不思議な風景へと連れて行ってくれます。シリーズで三作品出ていますが、どれも短編集でそれほど長くないものなのでお勧めです。（J.K.さんより）

自分がオススメするのは、こもとも子の『ごほうびごはん』です。

主人公のOLが、一週間に一度自分へのごほうびとして、美味しいご飯を食べるお話です。この漫画を読んで、自分も一週間に一度自分が好きな物を食べています。これは、ピアスでの訓練や就活中に辛いことがあっても、ご飯を食べてさえいれば、次に繋がると行って行っています。就職しても続けていきたいと思っています。（K.T.さんより）

私のおすすめのマンガは『JIN -仁-』です。

十年前と、つい先日再放送があったドラマ版が特に有名です。現代の脳外科医の主人公・南方仁が、幕末にタイムスリップし、彼の医学知識と数少ない現代医療器具と幕末当時ならではの産物を使って手術をし、助からなかったはずの命を救っていく物語です。主人公は、緒方洪庵や勝海舟、坂本龍馬と出会い、コレラや梅毒といった当時流行りの難病に立ち向かいます。歴史が変化していくかもしれない中、時々彼が謎の頭痛に苦しんだり、ヒロインとの恋愛絡みもあったりと、この作品の見所は多く、飽きさせない工夫が随所に見られます。

マンガ版とドラマ版は、それぞれ少し内容が違っているので、両方読みだり見たりするのをおすすめします。ドラマ版はハラハラしながらも最後は感動して涙ぐみました。命がけで他人の命を救う、今のコロナに通ずるところがあり、現在病院で治療にあたって先生や看護師さんたちを心から応援したいです。（栗原さんより）

他にも…

- ◆ ダニエル・キイス『アルジャーノンに花束を』
 - ◆ ジェイムズ・エルロイ『ブラック・ダリア』
 - ◆ 三浦しをん『風が強く吹いている』
 - ◆ 有栖川有栖「作家アリスシリーズ」
 - ◆ 別役実『黒い郵便船』
 - ◆ 沢木耕太郎『世界は「使われなかった人生」であふれている』
 - ◆ 安藤たかゆき『ここを病んで精神科病院に入院していました』
 - ◆ 五百田達成『察しない男 説明しない女』
 - ◆ 實井秀人『THE HYDE』
 - ◆ 田中芳樹『銀河英雄伝説』
 - ◆ 井上雄彦『スラムダンク』
 - ◆ 柴田ヨクサル『エアマスター』
 - ◆ 藤子・F・不二雄『流血鬼』
 - ◆ よしながふみ『きのう何食べた？』
 - ◆ 窪之内英策『ツルモク独身寮』
- などなどが寄せられました。



10年前の写真です。
片手に収まる子猫を育てたら、
片手を収める猫が育ちました。
たまに見て癒されています。ここで一句、
よりをかけ
かわいがったら
よりかかる
以上、想像しただい意味が変貌する
私が大事にしている戒めで作った俳句でした。
ご笑納頂ければ幸いです（本橋さんより）



「根室本線釧路～根室間にて、冬の雪原を鹿笛鳴らす列車に驚かず悠然と歩くエゾシカ。またこのような長閑な光景を観光できる日が来ることを願って」（山本さんより）

藤本さんが立ち寄った牧場にいた、もふもふの羊。休み中、散歩やサイクリングを楽しんだ方も多いようです。運動不足になりますよね…



M.S.さんが、休み中に完成させた刺し子の作品。とっても細かい…！根気のいる物作りやパズルなんかに取り掛かるにはもってこいかも。



私のおすすめ 映画

『パリ、テキサス』

私のお勧めの映画は、ヴィム・ヴェンダース監督の「パリ、テキサス」です。1984年のカンヌ映画祭でパルムドールを獲った作品です。妻を愛しすぎた男がやがて束縛するようになり、妻は幼い息子を残し消息を絶つ。男は4年間の放浪の後、テキサスの砂漠で発見され、弟夫婦に育てられた息子と再会し、一緒に母親を探す旅に出るというロードムービーです。赤色が印象的な映像と、ライ・クーダーの音楽が美しい作品です。

息子に再会する時に、メイドに「お金持ちの父親の服装がいいか、貧乏のそれでもいいか」を聞かれた主人公が「真ん中で」と答え、「中間は無いのよ」と言われる場面が記憶に残っています。（J.K.さんより）

『うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー』

原作は高橋留美子、監督は押井守。1984年の作品。ストーリーは主人公あたる達が通う友引高校は学園祭を前日に控えて大騒ぎ。あたる達は学校に泊まりこんで準備をするが、次の日目覚めると、やはり学園祭の前日だった。そこは、妖怪・夢邪鬼がラムのために作った夢の世界だったのだ。永遠に繰り返される「学園祭の前日」から、あたる達は脱出できるのか？

「終わらない学園祭」という大人になりたくないとも言えるモチーフが若者の心を強く捉える一方で、「繰り返される時間」というSF的な仕掛けが印象に残った。ラムの内宇宙（インナー・スペース）を舞台にした不条理ドラマが繰り広げられて面白かった。学園祭の時間は若い人にとっては永遠の夢であり、ああいう世界があったら、あそこで生活してみたいと思わせる力がこの映画にあった。ラストのラムのセリフが心に刺さる名作。（S.M.さんより）

『もののけ姫』

僕のおすすめの映画は、不朽の名作『もののけ姫』です。シシガミの森が破壊される物語終盤、うなだれもう終わりと弱音を吐くもののけ姫。そこに主人公アシタカのこの一言です！

「まだ終わらない。私達が生きているのだから。」「生きる」

その一言で救われた人がどれだけいたでしょうか。今、世界中で多くの人々が命を落としています。私達には確かに障害があります。でも、私達は生きている、そう、生きているんです。亡くなった方分まで生きようなんて偉そうなことは言えません。でも、今自分に出来る事を一つ一つ積み重ねることが、いつか必ず誰かを笑顔に変える。その時僕らが泣いてたっていいじゃないですか。それが、喜びの涙なら。

ゴーストライター雇ったなって思われるかもしれないですけど、時には真面目な事も言うY.Y.でした。

『ダブルフェイス』

私の一番好きなドラマはWOWOWとTBSが共同制作した『ダブルフェイス』です。主人公は二人いて一人目は西島秀俊さん、ヤクザに潜入捜査する警察官です。もう一人が香川照之さん演じる警察に潜入するヤクザ。サブキャストも角野卓造さん等豪華です。

それぞれ西島さんの視点からのストーリーと香川さん視点のストーリーで2部構成されていて、とても良く出来ています。ただし少しシリアスな物語のため元気な時に見た方が良いです。1部の初めの辺りで角野さんがいきなり死んでしまうのはびっくりです。和久井さんが演じる役も結構良いです。結構バタバタと人が死んでしまうので最初はびっくりしましたが、人生立場が違くと生き方が色々あるんだなと思わせるドラマでした。是非お勧めです。（岩田さんより）

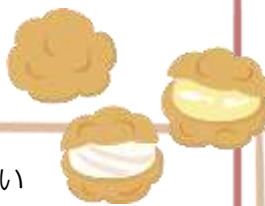


他にも…
『桐島、部活やめるってよ』
『ビリギャル』 『セトウツミ』
『MOON CHILD』
『息子』 『プロメア』
『杉原千畝』
『インディペンデントリビング』

『シャイン』 『ジョーカー』
『ターミネーター』
『トロピック・サンダー』
『ホーム・アローン』
『サタンタンゴ』
『ニュー・シネマ・パラダイス』
『シェルブールの雨傘』
『パーフェクトワールド』

etc... おうちでのお供にぜひ！

自分の好きなもの



この機会に、私倉林が愛して止まない**シュークリーム**について語ります。

退院して約3年、300種類以上のシュークリームを食べてきました。振り返ってみると、定番のカスタードや、生クリームとのダブル、いちご、チョコ、抹茶など色々ありました。私のベスト3は、

3位がピアードパパのシュークリーム

2位がコージーコーナーのジャンボシュークリーム

1位がシャトレゼの桃のシュークリーム です。

おススメのお店は、100円ローソン。色々な種類が次々に出るので、毎日チェックするのが楽しみです。これからも体重を気にしつつ、食べ続けます。もし新発売のシュークリームを見かけたら倉林までご一報ください。

自分の好きなものは**ランニング**です。

私は小学校の頃からランニングを続けています。ちなみに長距離の方が得意です。短距離はいくら練習してもなかなか速くならない先天性なものと言われていたのですが、長距離は練習を積み重ねていくと速くなる後天性なものと言われています。そこに長距離の魅力があると思います。

走ることで日常の嫌なことを忘れられリフレッシュできます。自分のペースで走れることもいいことだと感じます。周りのことを気にせず自分と向き合いながら走れます。時計やシューズ、ウェアなどをそろえれば気軽に取り組みます。

走る習慣がない人にはランニングはとても辛いものだと思うかもしれませんが、慣れや経験もあります。良かったら皆さんもランニングをしてみたいかがでしょうか？小鳥のさえずりや景色の変化を感じながら走れるランニング、僕は大好きです。（渡部さんより）



好きなコンビニおすすめ商品

私の好きなコンビニはファミリーマートです。

理由は私好みの一品である**ナポリタン**があるからです。ファミマのナポリタンには出会ってから3年以上は過ぎたと思いますが、以前は週に1回、多い時には週に2回ほど食していました。もはや中毒レベルに達しています。味は多めのトマトのソースと、何故か遠慮気味にしか入ってない玉ねぎとピーマン、斜め薄切りのソーセージが5つか6つ入っていて、それらが絶妙なコンビネーションを醸し出しながらも、素朴な感じを残しつつも美味であるからです。

私の知る限り、サイズに大中小の3つあるのですが、中サイズ（398円税込み）のものがおすすめです。このナポリタンという一品があるからこそ、私はファミリーマートが好きなコンビニなのかも知れません。（村井さんより）

おすすめのコンビニ商品を紹介します。それはローソンの「**もちぷよ**」。

コンビニのスイーツに関してはあまり感動したことのない自分ですが、これはおすすめできます。一見、小さくて物足りないと思うかもしれませんが、しかし、クリームが中にたっぷり入っていて少しずつ食べると幸福感に満たされます。外側がもちもちしていて、食べ応えもあります。まさに「量より質」にこだわったスイーツであると言えます。

値段も相応の税込100円。スマートニュースというアプリのクーポンを使うと税込80円で買えます。コンビニスイーツの最安値なのではないでしょうか。80円だったら試してみる価値があるのでは？（M.N.さんより）

私はそんなにコンビニを利用する方ではないのですが、たまに甘いものが食べたくなった時は、どちらかというとセブンイレブンよりはファミリーマートに行きます。何故か？それはピアスの就労プログラムでも話したことがあります、**「窯出しプリンのパフェ」**があるから。一口食べた時の甘苦い感じが時々急に欲しくなるんですよ。価格はちょっと高め。でも量もそこそこあるので、たまの贅沢もいかな、ということで。疲れた時にオススメです。（K.T.さんより）



繰り返し聴いている音楽



私が紹介する音楽は、ザ・ビーチ・ボーイズの**ペット・サウンズ**というアルバムです。

当時20代で引きこもっていた私は、何か人生の指針となるものを探していました。そんなとき、国立のレコード店でこのアルバムに出会いました。初めて聴いたとき、とても親密な感じがして、癒されました。それから、夢中になって聴きました。中毒のように。歌詞の内容は、20代前半だったブライアン・ウィルソン（ザ・ビーチ・ボーイズのリーダー）の心情を吐露するものが多く、心を揺さぶられました。

名曲揃いのアルバムの中でも、特に好きな曲は、「**ゴッド・オンリー・ノウズ**」という曲です。この曲は、愛についての曲ですが、ただのラブソングではなく、ブライアンの宗教的な愛を感じます。

ペット・サウンズは、私にとって、人生を変えたアルバムです。恐怖に支配されていた心が癒され、人生で大切なことは何かを教えてくれたと思っています。

（児玉さんより）

映画『ラブ&マーシー』もおすすめ。



YouTube に**あいみょん**の「**マリーゴールド**」の武道館ライブ映像があります。曲も好きなんですが、歌っている姿に心を奪われました。自然と涙が溢れ落ちたのを覚えています。飾らない感じとか媚びない感じが、女性ですが、すごくカッコいいです。

また、最近の話になるのですが、**江頭 2:50**さんがYouTubeに進出しはじめて、みているのですが、その中に**THE BLUE HEARTS**の「**人にやさしく**」という曲を歌っています。「人にやさしく」は聴いたことなかったのですが、江頭さんが歌うのを見て聴いて、感動してしまいました。それはもちろん歌がいいのもありますが、江頭さんの心の叫びが心に響いたんだと思います。それから何回も涙を流しながら、聴いています。

（Y.A.さんより）



私が繰り返し聴いている音楽は**中森明菜**の「**少女A**」です。理由は何より出だしのメロディがめっちゃくちゃカッコいいからです。自分は昭和の時代の音楽が好きでよく聴いています。その中でも「少女A」はすば抜けてカッコいいと思います。カラオケでもよく歌います。皆さんも是非聴いてみて下さい。

（赤羽さんより）



僕は好きな音楽ほど飽きないように聴くので、繰り返し聴くというより長く聴いている音楽になるだろうか。一曲目は**the pillows**の「**公園～黄昏のワルツ**」。ピロウズの好きな曲の一つ。僕は歌詞をあまり意識しない方だが、少しひねくれた歌詞から広がる情景は美しい。黄昏時の公園、揺れるブランコ、足元の枯葉、水たまり、忘れられた三輪車。

二曲目は**七尾旅人**の「**ガリバー2**」。10分の大作だが、中だるみせず聴けてしまう。初めて聴く時は元気な時がいかかもしれない。歌詞は聞き取るのが難しいが素晴らしいので、見ながら聴くのを勧めます。独特の世界観が光る個性的な一曲だが、泣かないで、泣かないでと優しく切ない愛を感じる。（岡村さんより）



繰り返し聴いている音楽の1つは、**ゲームの音楽**です。小さな頃からゲームが好きだったので、当時からポケモンなどのゲームの音楽もまた、好きだったのを覚えています。昔はなかなか、歌、歌詞のある曲はなかったのですが、ゲーム機本体の性能の向上に合わせて、歌詞のある曲も今はよくあります。ですが、歌詞のない、ゲームをやっている時に流れる音楽も、僕はとても好きです。

好きな理由を言葉にするのは難しいのですが、歌詞がないので、聴くのに頭や注意力を使わないのと、なおかつ曲によっては、曲の激しさもあって、気持ちが動かされたりするところです。ゲームの音楽だから、好きなのは耳がバカなのかな。とも思ったりしますが、それでも繰り返し聴いてしまうくらい好きです。（植木さんより）



わたしが繰り返し聴いているのは**パッヘルベルのカノン**です。初めて聴いたのは、幼稚園の時に見ていた子供向けのクラシック音楽を取り扱う番組でした。その番組で聴いていた他の曲は怖さや不気味な感じという印象を受けたのに対し、なぜかカノンだけは気持ちが落ち着いたのでよく覚えています。大人になった今もこの曲を聴くと気持ちが安らぎますし、曲中にパッヘルベルのカノンのメロディーが組み込まれている曲も好きでよく聴いています。

実現できるかどうか分かりませんが、いつか実際にカノンをチェロで演奏してみたいなとも思っています。音楽はその時の気分も変えてくれるので、自分には欠かせないものだなと思います。（M.S.さんより）



山下さんより、春の花々の写真をいただきました。

のんびり散歩をしながら、普段は忙しく通り過ぎてしまう道端にもふと目を向けると、季節の移ろいが感じられますね。



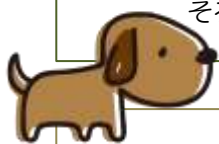
寄稿 ～自宅待機を経験して～ スタッフより

4月の半ばから自宅待機になり、それからは子どもと何をしようか、の毎日でした。普段ではなかなか取れない貴重な時間をもらった感じです。幸いなことに近所に広場や遊歩道があり、散歩が日課になりました。湧き水の周りにはザリガニの子どもやおたまじゃくしがいて、捕獲作業に真剣になったりしていました。

とはいえ、楽しいことばかりではなく、なにが物足りなさもありました。話す相手は家族だけ、行けるところはスーパー、だんだん何かから遠ざかってきていると感じ始め… 外の空気が吸いたい!!と思う事も。そこでためしに流行りのオンライン飲み会をしてみました。ノイズやタイムラグに不便さもありましたが、友達と笑って話せたことで少し解消されました。何がストレスでリラックスなのか、これこのあいだ就プロでやったじゃん、なんて思いながら日常と今を比べたりしています。外でご飯を食べたり、仕事帰りに少し寄り道したり、おしゃべりすることが心の健康を保っていたんだと感じています。

そしてもう一つ気付いたことは、我が家の食卓はピアスのお惣菜に助けられていたということです。棕櫚亭の食でつながらる文化、お弁当の再開、厨房の活気が待ち遠しいです。

そろそろ自宅待機も終盤です。少しずつ日常が戻るのを楽しみにしています。（野口）



緊急事態宣言が出てからのこの1ヶ月間、完全に自宅待機をさせてもらっている。超の付く出不精の私でも、こんなに掛かず人と会わないのは流石に初めてだ。初めは、積んである本を片端から読み、猫と一日中思索に耽るといった贅沢な日々を想い描いていたのだが、なぜか急に活動的になって庭仕事や運動に精を出してみたり、布マスクを作ったりと、思いの外忙しく過ごしている。

そんな訳で日常の時間は案外速く流れていくのだが、様々な物事から一旦立ち止まり、世の喧騒や人との関わりによる摩擦から逃れられて正直安堵もする一方で、どこか時間が止まったような、世の中から取り残されているような不思議な感覚も覚えている。きっと、仕事や文化、人の関わりは何もかもがオンライン化されているこの世の中と一緒で、圧倒的に現実感がないのだ。摩擦がないから、痛みもなければ温もりもない。匂いや質量がなく、汗もかかない。

このコロナにより、日常にも福祉のあり方にもじわりと押し寄せていた変化が、今までにない勢いで加速するのだろう。顔を合わさないオンライン面談だって当たり前になるかもしれない。バーチャルの良さもあり、思わぬ可能性が広がることだってあるが、特に思慮なしに何事も「便利だから今後もずっとこれでいいよね」となるのは考え物だ。

今後宣言が解除され出勤するようになると、きっとピアスで汗だくになって走り回り、ガヤガヤとみんなで食事をする忙しく賑やかな毎日が戻り、時はあつという間に過ぎていくだろう。そんな中で、新しい物を取り入れながらも本質は失わないようなバランス感覚や、変わりゆくものを熟考する余裕は失わないようにしていきたい。そういった意味では人生時折、自由に家に籠ってみて、立ち止まって考える時間があるのもいいのかもしれないが、ちょっと贅沢でしょうか…。（尾崎）



◆ピアスからのお知らせ◆

～ 定着支援事業をご利用のみなさまへ ～

新型コロナウイルス感染症防止のため、緊張が続く日々のことと思います。みなさんからも、「仕事の出勤体制が変わった」「仕事の内容が少し変わった」などの声が聞かれ、日常の変化が、次第に新しい日常になりつつあるのを感じます。

ピアスは、緊急事態宣言及びその延長を受け、4月16日から通所サービスを休止していました。5月25日以降、段階的に再開をしていきますが、以前と同じような対面での面談、以前と同じような大人数でのグループ活動を行うのは、しばらく難しい状況です。

そのようななか、今後のOB会は新しい形を検討しています。「メールでやりとり」、「オンラインで〇〇」等々、工夫して何か出来ないだろうか・・・と考えています。そのため、みなさんの意向やアイデアを、ぜひお聞きできればと思います。

6月に入って、こちらから連絡をいたしますので、よろしくお願いします。

～ その他のお知らせ ～

多摩棕櫚亭協会では、新型コロナウイルス感染症防止として、法人建物入り口にアルコールスプレーの消毒液を置いています。手洗いも含め、入館時の手指消毒のご協力をお願いしています。また、来館者の記録のため、入館の際は、お手数ですが来館者名簿への記入をお願いしています。今後も建物内の人数が密になることを避けるため、不急ではない面談の変更や訪問の延期をお願いすることがあります。今後も安全にみなさまにご利用いただくため、重ねてご協力をお願いします。

マスクを含め、日用品等手に入りにくい日々が続いています。また、体調等での不安も一人で抱え込まず、何かありましたらピアスにご連絡ください。



○編集後記○

今号は、自宅から編集してお届けしております。まあまあ密な紙面ですが、これでもご紹介できた文章はごく一部。またの機会に掲載したいと思っています。

私、休み中は積読解消するはずだったのですが、「古本屋に行けないのならばせめてネットで買って応援！」と意気込み、結局増える一方…。その街ならではの文化を担う小さな店や劇場に、これからも足を運べることを切に願うばかりです。

これからは暑くもなりそうですね。みなさま、ご自愛のほどお祈り申し上げます。（尾崎）



ホームページで最新情報をお届けしています。

→ www.shuro.jp

または『棕櫚亭』で検索！



【編集】 国立市富士見台 1-17-4

社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会

就労移行支援事業所ピアス内

はれのちくもり編集委員会

Tel 042-575-5911

【発行】 特定非営利活動法人

障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 世田谷区祖師谷 3-1-17-102

Tel 03-6277-9611

【定価】 100円